

2022年01月11日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【米国の利上げ観測が強まっている】

先週末(2022年1月7日)には、米国雇用統計の発表があった。

今年(2022年)の初めの米国雇用統計であり、マーケット(市場参加者)は、大いに注目した様子だ。

米国雇用統計の発表の直前には、静まり返った雰囲気が伝わってくるような感触があった。

+++++

そして、その発表の直後には、ドル/円が、大きく急落して動き出した。

12月の非農業部門雇用者数(NFP)が、事前予想を大きく下回ったことに反応したため、と考えられる。

ちなみに、12月の非農業部門雇用者数(NFP)の事前予想は、+40.0万人。

そして、発表された結果は+19.9万人。

ところが、大きく下落したドル/円は、そこから反発に転じ、発表前の水準に上昇した。

非農業部門雇用者数(NFP)は、事前予想を大きく下回ったものの、失業率の結果は、3.9%で、事前予想の4.1%を大きく上回ったことに反応した、と考えられる。

発表された米国雇用統計の詳細を眺めても、平均時給も事前予想を上回っており、総合的に判断するならば、決して悪い内容ではない、と考えられる。

トータルで見ると、米国の利上げに向かうスタンスに変更を与えるような内容ではない、と考えます。

むしろ、今回の米国雇用統計で、労働環境の逼迫が、改めて確認されたこととなり、米国の利上げに向かうスタンスは強化された、と判断するべきでしょう。

つまり、失業率の3.9%という結果は、ほとんど完全雇用に近い状態であり、かつ、賃金の上昇を示す結果は、金融政策での引き締めを促す内容である、とうこと。

+++++

マーケット（金融市場）では、今年（2022年）の3月に、米国が政策金利を引き上げる観測が強くなっている、と考えられる。

従来（＝昨年末ころ）は、今年（2022年）の6月頃から、米国が政策金利を引き上げるの
だろう、という観測が大勢を占めていた。

だから、米国の利上げ観測が強まっている、と判断できる。

++++
++++

米国雇用統計を終えて、昨日（2022年1月10日）の東京市場は「成人の日」で休場。

昨日（2022年1月10日）のニューヨーク市場では、ダウ株価が一時500ドルを超える下
落を見たことで、ドル／円は、115.00ア라운드（正確には、115.05）に下落。

ただし、ダウ株価が、引けにかけて下落幅を縮小したことで、ドル／円は、115円を割り込
むことはなかった。

++++
++++

（2022年01月11日東京時間15：25記述）